

漂 標

みおつくし

第 7 号
2020年5月

NPO法人ベーチェット病協会

〒800-0208 北九州市小倉南区沼本町 1-8-5 大本方

研究者の情熱身近に

第3回日本ベーチェツ

ト病学会に参加して

会員レポート



季節は春爛漫となりましたが、新型コロナウイルス感染症により日常生活においても色々な影響が出てきているのではないのでしょうか。病気を持っているとなおさら、気がかりで不安になります。

◇
そこで今号では、病気に
ついて知ろうということ
で、昨年開催された第
三回日本ベーチェツ
ト病学会と新型コロナウイルス
感染症対策について
取り上げます。

ベーチェット病学会は、
二〇一九年十一月二十三日
にパシフィコ横浜で開催さ
れました。本会会員のうさ
んが参加され、「とても良か
ったですよ」との連絡をい
ただいたので、「漂標」への

掲載についてお許しを頂き、ご紹介しします。

日本ペーチェット病学会は二〇一七年に創立された若い学会です。それまでは厚生労働省の難病の治療研究班による班会議で議論されていましたが、「難病の患者に対する医療等に関する法律」(難病法)の施行によって、研究班の役割(診断基準や重症度判定基準の議論を行う)も変化したため、病態の解明、診断や治療法に関する学術的な議論の場として作られたそうです。治療研究班による成果は「ペーチェット病診療ガイドライン 2020」として出版されています。

第三回日本ペーチェット病学会は「自己炎症と自己

免疫の視点を超えて」と題して行われました。学会長の石ヶ坪良明先生によると「私の若い頃は、ペーチェット病は自己免疫疾患の一つで膠原病類縁疾患として分類されてきました。最近では、ペーチェット病は自己免疫疾患というよりも、自己炎症疾患という概念に近いとされています。」とのことです(大会集録集より)。これらは診断や治療法に関わる大きな考え方の変化をもたらすものと思われます。大会集録集によりますと、ペーチェット病の分類、中でもゲノム解析を用いたものの、生物学製剤を用いた治療の有効性や個人差について、どのような物質が診断に使えるかという診断マ

ーカーを採す研究、具体的なそれぞれの治療法の効果、先生方が治療した症例などについて報告されています。新しい治療法としては、角化症や乾癬という皮膚科の疾患の内服治療薬のアプレミラスト(商品名オテズラ)が、口腔潰瘍に有効であることが報告されています。通読すると、どの先生がどんな課題に取り組んでおられるのかが見え、日頃の診療の場面とは異なる研究者の一面が感じられます。さらに、どの先生も情熱を持って研究に取り組みされていることが伝わり、研究成果が、早く実際の治療に活かされ、難渋する症状が少しでも軽快し、治る病気となるよう祈るような気持ち

ちになります。さらに、この学会はペーチェット病の班会議のユニークな点も継承され、患者参加型で行われているそうです。ペーチェット病の大家・大野先生の提唱で、二〇〇〇年に国際ペーチェット病患者会が発足し、国際ペーチェット病学会とジョイントされて今日に至っているとのこと、日本の学会も患者参加型であることは「ペーチェット病の研究が患者さんと一緒に歩んできたことも特筆すべきだと思います。」(石ヶ坪先生)とのこと。遠方の学会などに参加することが難しいですが、会場の熱気に触れた気持ちになれました。

新型コロナウイルス感染症

対策について 事務局レポート

みなさん、新型コロナウイルス感染症対策ではどんなことをしていますか？マスク不足、トイレトペーパー不足を始め、外出自粛など日常生活への影響が日々大きくなってきています。国は感染拡大防止の効果を最大限にするため、「1. クラスター（集団）の早期発見・早期対応」、「2. 患者の早期診断・重症者への集中治療の充実と医療提供体制の確保」、「3. 市民の行動変容」という3本柱の基本戦略を出しています。ひとり

ひとりができることは「3. 市民の行動変容」ではないでしょうか。病気を持つて



いてもセルフマネジメントの力で乗り切っていきたい。以下、厚生労働省の「新型コロナウイルス感染症について」のホームページ

ジから抜粋、要約してお伝えします。

◆新型コロナウイルス感染症って何？

新型コロナウイルス感染症は新型インフルエンザとはウイルスも形態も異なる感染症で、次のような特徴があるそうです。

- ① 集団感染が生じた場の共通点は、一、密閉空間（換気が悪い）、二、密集場所（多くの人が密集）、三、密接場面（互いに手を伸ばしたら手が届く距離で会話や発声）という三つの条件が同時に重なる場である。
- ② 新型コロナウイルスに感染すると、発熱や呼吸器症状が一週間前後、持

続することが多く、強いだるさ（倦怠感）を訴える人が多い。

◆なぜ、感染するの？

新型コロナウイルスは咳やくしゃみの小さな粒（飛沫）に乗って空中を漂い、それを吸い込んだ人にうつっていきます。また、ウイルスが付着したものに触った手で自分の顔や髪、鼻を触ること（接触）により、ウイルスが侵入することで広がります。ウイルスが入り込むのは口や鼻の粘膜からなので、

◆どうやったら防げる？

したがって、密閉（換気の悪い場所）、密集（不特定多数の人が集まるところ）、密



接（間近で会話などするところ）を避けるように言われています。これまで感染が明らかとなった場所は、スポーツジム、屋形船、ブッフエスタイルの会食、雀荘、スキーのゲストハウス、密閉された仮設テント、カラオケボックス、接待のあるバー、スナック、葬式などで

す。これらから、部屋の風通

しを良くして、多数の人が一度に集まらず、複数の人がいても静かにし、飛沫がかからないくらいの十分な距離（互いの手が届かないくらい）を保ってれば、感染のリスクを減らすことができます。さらに、自分の体でも、ウイルスが付着しているかもしれない手で顔や髪、鼻を触らなければ、感染のリスクを減らすことができます。人は意外と多く顔を触っています。頭部を触る前に流水か石鹸で十分な手洗いをすると、触った後にも流水か石鹸で十分な手洗いをすると、さらに、感染のリスクを減らすことができます。

◆毎日の生活で大切なこと
早寝、早起き、朝ごはんと言いますが、日ごろの体調管理と十分な睡眠はとても大切です。二人程度での散歩、ネットを見ながらの筋トレやヨガ、歌やカラオケなどで、こころと身体の調子を整えましょう。筆者は、家の中でその場ジョギングを始めました。とはいえ、色々な制限がありますので、

知恵を絞って制限の中でできることをひねり出します。んか。

おしらせ

六月に予定されていた会員総会、医療講演会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止します。総会審議事項は書面による決議とします。ご理解・ご協力のほど、宜しくお願いいたします。（「行政書士に聞いてみた」は休載します）

【編集後記】 免疫抑制剤やステロイドの常用者が少なくないベーチェット病患者にとって、新型コロナウイルスの脅威は他人事ではありません。「うつらないこと、うつさないこと」が何より大事です。どうか不要不急の外出を避け、安全にお過ごしください。残念ながら総会は中止となりましたが、また再び皆さんの元気なお姿を拜見できる日を楽しみにしております。